Y21a　チリにおける天体観望会の実施 (1) 準備状況

阪本成一 (国立天文台)

チリは観測条件に恵まれ、ALMA をはじめとする世界最先端の望遠鏡が稼働している。チリ国民にとってこの事実は誇らしいもので、特に ALMA の認知度は高い。同様に日本人のチリ駐在員にとっても、日本が ALMA が参加していて大勢の日本人天文学者がチリで業務に従事していることはよく知られている。その一方で、チリには本格的なプラネタリウムが 1 つしかなく、チリ国民や日本人駐在員が実際の星空や天文学者・学芸員による解説に触れる機会もそれほど多くない。ALMA の地元の村である San Pedro de Atacama では商業的な天体観望ツアーが催行されているものの、首都 Santiago では合同 ALMA 観測所などによる天体観望会がときどき開かれる程度で、頻度も日本国内でのそれには遠く及ばない。そのため駐在員や同伴家族からも、南天の星空を楽しみたくても機会が得にくく残念だとの意見がしばしば寄せられている。チリという天文の聖地で日本で見られない星を見ることができれば、日本に帰任したとしてもチリでの記憶として強く残ることだろう。

このたび諸事情によりチリ観測所長の宿舎を集合住宅の屋上を含む最上階に移すことになった。幸いにして Santiago は比較的晴天率が高く、高い歩留まりで観望を行うことができる。夜間の屋外活動を避けがちな子ども連れにとっても、宿舎のなかでの観望会は魅力的に違いない。そこで、所長宿舎屋上テラスでの天体観望会の実施を企画している。まずは国立天文台や合同 ALMA 観測所に勤務する職員とその家族・知人、日智商工会議所の構成員などを対象にして始めるとともに、チリの天文同好会との連携を深めて日本でのユニークな実践例を紹介・技術移転し、将来的には活動を Santiago 市内に拡大してゲリラ的な観望会などを実施することを計画している。今回は国外ならではの事情を踏まえた準備状況と実施計画について報告する。